

地蔵菩薩立像

地蔵菩薩は阿弥陀仏の主な付添人の一人で、日本の浄土宗の最も人気のある仏の一人でもある。この作品は、高さ 156 cm で、10 世紀にケヤキの一木から彫られた。

彫刻は、僧侶の礼服を着たエレガントで細身の人物に例証される。服の優雅なラインは、茶色と、灰色がかった黒の木目をたどり、服自体は滝のように流れ落ちているように見える。この効果は木目が混ざり合うことによってもたらされる。木目は波状の蛇行線を描き、実際にまっすぐでない木材を使用することは珍しいと考えられている。右腕が体にしっかりと巻きついているように見え、体の上半分が右側に向かって歪んでいるため、拘束された姿勢を表現していると考えられる。これは歪んだ木材に従って作品が彫られたためだと考えられ、この木材が古い神木から調達されたことを示唆する。神殿からも同じことを推測できる。木は、おそらく雷などの嵐で傷ついた神木から取られたのかもしれない。

地蔵菩薩のこの作品は、実際には起源が不明であり、不思議なことに、内部が空洞になっている。したがって、彫刻の実際の起源の手がかりなど、内部に情報が存在する可能性があるが、これまでのところ、寺院は彫刻の内部を調査していない。